



発行：救いの光教団
編集：神成編集室
東京都世田谷区北沢
(☎155-0031) 2-22-10
電話 代表 03(3413)0123
http://sukui.jp
毎月1回1日発行
購読料 1部80円
(会員の購読料は会費に含む)

2023
No.605
1月号

◎教団方針

ひろげよう浄霊の輪
ひろげよう仲間の輪
築き上げよう愛と活気あふれる教団を

◎方針のみちしるべ

- (一) みつめなおそう明主様の心
- (二) つらぬきとおそう明主様の心
- (三) 教団綱領を尊び実践する
- (四) 信仰継承は家族と家庭円満から

神歌 光明世界

だいこうみょう
大光明

せかい
世界というは曇りなき
すいしょうせかい
水晶世界の状をいうなり



※上記文字にかかるスジは、『神言霊』通り『たたんで懐にいれて』いたからです。数々の奇蹟を生んだ証しともいえるでしょう。

やす
安らけき

うま
美しの御代は樹てられん
きよ
浄められにし此地の上に

ひかり
光なり

ああひかり
嗚呼光なり鳥羽玉の
やみ
闇うち晴らすものにありせば

私は人を救う人を作る

私の書いた

「光」

「光明」

「大光明」

をかけている人の、いろいろの想念が、私に通じた時、一瞬にして、私の有つ光の一部が分かれて、その人につながる。

この霊線を通じて、多くの人を救うことができるのである。

このように、想念次第で、光は何万倍にも、どんなに遠くても放射され、連繫されて、お陰を頂くのである。

新年挨拶 『みんな元気に一、二、三』



おことばを述べられる光守様

皆様、明けましておめでとうございます。

癸卯の歳、教団創立五十年の大きな節目を経て、ご機嫌うるわしく、次なる新しい一歩を踏み出されましたことは、何よりのことと心からお喜び申し上げます。

目まぐるしく時は移り、私たちの生活にも、かつては想像だにできなかったことが、次々と影響をおよぼす世の中でございます。

御神業といえども、神様は私たちの心と体をお使いあそばして、進

会長訓 『歳の初めに際して』



会長 大沼泰彦

令和五年 癸卯（みずのと）年
新年明けましておめでとうございます。

信徒の皆様とともに新玉の御祭りを大光明、明主様の御許で参拝させていただき、清々しく一年を始めさせていただきますこと感謝で一杯です。

今年、御用の具体的指針として二〇二三年・令和五年教団方針として「ひろげよう浄霊の輪 ひろげよう仲間の輪 築き上げよう愛と活気あふれる教団を」と賜りました。

明主様を教祖とする私たちは、浄霊を取り次ぐことに救いの光教団としての存在意義を見いだします。明主様は浄霊の取り次ぎについて「病気を治すのが目的のようになっていくが、本当からいうとそれだけではないので、もっと大きな意味がある事をかいてみるが、一言

めておられます。学びも必要でしょう、授かる叡智もかせませんね。

神様のお道具として生かされている私たちは、常識的に、つまり社会の一員として、神様をしっかりと見つめてまいりたいものです。

『ささやかなことをゆるがせにせず、しかし大いなる望みを持ち』の御心を胸に自分磨きをする中で、他人様のお手伝い、お世話ができればありがたいですね。

人と人、心と心の営みを『おひかり』の力で形に顕してゆければ嬉しいことですわね。

いたずらに数にとらわれることなく、原点である、一人が一人をお救いさせていただきましよう。今年はそんな年にしまいりましようね。

皆さまと一緒歩んでまいりたいと思います。共に努力させていただきますましようね。

にしていえば浄霊とは幸福を生む方法である。」と仰っておられます。

今一度浄霊の捉え方、考え方を基本に立ち返り、万人に浄霊を取り次ぐ実践をしていかなければなりません。そして、浄霊を求め、浄霊によつて救われたいと望む方には「ひかり会員、入信」という縁を許され「おひかり」を授かり、人を救う人づくりへと導きをさせていただきますましよう。

私たちは今、少子高齢化と宗教離れと相まって恒常化した信仰生活を送っています。新たな仲間づくりが進まない状況ですが、私たちこそ信仰を許されていることを喜びに感じ、楽しみましよう。そうして新たな風を吹かせましよう。人に優しく、利他愛をもって活気あふれる布教拠点、教団づくりをしてまいりましよう。

半世紀を歩んだ実績と経験は、何物にも代えがたい実践の力となつてはいます。新たな一歩を愛と情熱をもって、創立五十一周年目の年を踏み出してまいりたいと思います。

今年も信徒の皆様が大神様、明主様に守られ、光守様の深い愛の祈りの中に御用を許されることを心より祈らせていただきます。



信徒総代 清水 知明

新年あけましておめでとう
ございます。昨年は、救いの光
教団創立五十周年の節目を光
守様はじめ教師の皆様、信徒
の皆様のご協力により無事迎
えることが出来ました。深く
感謝申し上げます。

昨年は、前年から続いて新型コ
ロナウィルスの感染拡大が、私た
ちの生活に大きな影響を与え、
参拝も思うようにできず、神業
にも様々な困難がありました。

二〇二三年、令和五年の本
年は十干十二支では癸卯（み
ずのと）にあたります。癸
（みずのと）には、物事の終わ
りと始まりを意味するほか
「春の間近でつぼみが花開く直
前である」という意味がある
そうです。卯（う）は、もと
もと「茂」という字が由来と
いわれ「春のおとずれを感じ
る」という意味だそうです。
これから「これまでの努力が
花開き、実り始めること」と
いった縁起のよさを表してい
ると言えそうです。

教団においても大沼新会長の
新体制のもと、五十二年目の新
たな年がスタートしました。明
主様がお示しの大光明世界の
実現に向け小さな歩を明るく
前向きに踏み出してまいりま
しう。信徒の皆様におかれま
しては、本年も実り多き年にな
りますようお祈り申し上げます。



信徒総代 唐澤 収一

あけましておめでとう
ございます。

新しい年を皆様と共に恙
なく迎えられましたこと大
神様・明主様そして光守様
の日々のお祈りに感謝申し
上げます。

さて、今年の干支は癸卯
（みずのと）の年になりま
すが、干支の意味を調べる
と「寒気が緩み、萌芽を促
す年」厳しい冬が去り春の
兆しが訪れるとあります。

昨年もコロナ禍が続き、ま
た旧統一教会の宗教問題な
ど、私たちの教団活動にも
逆風となっていることが数
多くあります。こんな時だ
からこそ何もできないと諦
めるのではなく、足場を固め
るに進む良いチャンスと捉
え、日々の神言霊拝読、光
の家づくりや身近な人への
お世話、ご案内、想念の浄
霊など、できることから
学びと実践を一層深めて、
明主様の御心に叶うよう一
人一人が信仰向上に努める
ことが大事だと思います。

私も教団と信徒の皆様と
の良きパイプ役になれるよう
努力いたす所存です。今年
の干支にあやかり希望が芽
吹き、穏やかな春が訪れる
ことを祈りたいと思います。



信徒総代 滝澤 幹雄

皆様、新年明けましておめ
でとうございます。本年もど
うぞ宜しくお願いいたします。

御承知の通り、昨年教団は
創立五十周年の節目となるお
祝いの年を迎えましたが、そ
の一方で神成郷須玉総本部の
終締めとなった大変厳しい年
となりました。また、依然終
息がみえないコロナ禍の中で
私達の信仰活動は難しい状況
が続き、急務の課題である育
成継承も中々進展が図れない
状況となっております。

本年、私達は大沼会長の元
まさに次の五十年に向けて
の新たな一歩を踏み出す、創
立五十一年目を迎えました。

私はこの次の第一歩を多く
の皆様と共に踏み出したい
と思っております。コロナ禍
の中で出来る活動が続け
て来られた方、中々活動が行
えなかった方、ぜひそれぞれの
の自所位の中で、昨年までに
踏み出せなかった、新たな一
歩を、皆で踏み出させて頂き
ましょう。

大光明明主様、光守様、大
沼会長、本年も厚き御守護と
御指導を賜りますよう、何卒
よろしくお願いいたします。



山形教会長 浅水 屋治

癸卯の歳、明けまして
おめでとうございます。

皆様におかれまして
は、恙なく新年をお迎え
になられたこととお慶び
申し上げます。本年も何
卒よろしくお願い申し上
げます。

現況を見つめる時、非
日常が日常になりつつあ
ります。

未だ抜けきれないコロ
ナ禍の下、それぞれの立
場において、今でできる
最大限の努力を、創意と
工夫をもって、信徒・未
信徒の皆様のお世話に生
かせるよう取り組みまし
よう。



塩竈教会長 佐藤 直登

令和五年、癸卯（みずの
と）の年、新年明けまし
ておめでとうございます。今
年の教団方針を賜りまし
た、「広げよう浄霊の輪、広げ
よう仲間の輪、築き上げよう
愛と活気あふれる教団を」と
今、下北沢は若者で活気に
あふれ、町全体が凄まじく変
化しています。

救いの光教団の発祥地でもあ
る下北沢の東京本部、東京教会
も教団方針にあるように活気
あふれる教会になります様に。
またコロナ禍で活動もまま
なりません、出来る範囲
の継承問題等一人一人が逆風
に負けず信仰向上に努め、明
主様の御心に叶う様に努力精
進してまいります。

また前回の卯の年に起き
た東日本大震災の十三回忌
となります。復興は少しず
つ進みつつありますが、ま
だまだ供養されずにいる霊
も多くいると聞いています。
光導実践として年二回、現
地に行つての供養を行い、ま
だ当教団を知らない人たち
にも、知らせていく活動を
行つてまいります。

また前回の卯の年に起き
た東日本大震災の十三回忌
となります。復興は少しず
つ進みつつありますが、ま
だまだ供養されずにいる霊
も多くいると聞いています。
光導実践として年二回、現
地に行つての供養を行い、ま
だ当教団を知らない人たち
にも、知らせていく活動を
行つてまいります。



東京教会長 宮内 瑠美

新年明けましておめでとう
ございます。

今年の教団方針を賜りまし
た、「広げよう浄霊の輪、広げ
よう仲間の輪、築き上げよう
愛と活気あふれる教団を」と
今、下北沢は若者で活気に
あふれ、町全体が凄まじく変
化しています。

救いの光教団の発祥地でもあ
る下北沢の東京本部、東京教会
も教団方針にあるように活気
あふれる教会になります様に。
またコロナ禍で活動もまま
なりません、出来る範囲
の継承問題等一人一人が逆風
に負けず信仰向上に努め、明
主様の御心に叶う様に努力精
進してまいります。

また前回の卯の年に起き
た東日本大震災の十三回忌
となります。復興は少しず
つ進みつつありますが、ま
だまだ供養されずにいる霊
も多くいると聞いています。
光導実践として年二回、現
地に行つての供養を行い、ま
だ当教団を知らない人たち
にも、知らせていく活動を
行つてまいります。



埼玉教会長 田中 伸幸

全国の信徒の皆様、新年
明けましておめでとうござ
います。

日頃より御神業にお励み頂
き、誠にありがとうございます。
今年令和五年は、創立半
世紀を経た救いの光教団にと
つて、新たなスタートの年
となりました。

ご存知のように、世界中で
「病貧争」の様々な浄化が、
常に起こっております。そう
した状況の中、私たちができ
る「人救いの」御神業は、家
族、友人、知人、隣人等、常
に身近な人々への接触から
しか成しえられません。見知らぬ
人のお導きは勿論のことです
が、先ず縁ある人々を「光
の道」へ誘つてあげるとい
うことを、今年は第一目標に掲
げて行きます。以前のように
ドンドン入信者がでる時代で
はありません。ということは、
全ての未信徒さんに対して、
同じようなアプローチでは通
用しないということです。縁
ある未信徒さんの人間性をよ
く理解している信徒の皆さん
の、真摯な「一対一の個別対
応」が実を結ぶように、教会
長として最大限のお世話にあ
たらせて頂きたいと思つてお
ります。

また前回の卯の年に起き
た東日本大震災の十三回忌
となります。復興は少しず
つ進みつつありますが、ま
だまだ供養されずにいる霊
も多くいると聞いています。
光導実践として年二回、現
地に行つての供養を行い、ま
だ当教団を知らない人たち
にも、知らせていく活動を
行つてまいります。



長岡教会長 窪田 秀男

明けましておめでとう
ございます。

昨年は教団創立五十周
年を無事に納めさせて頂
き、今日よりは次なる五
十年に向けて新たな一歩
を踏み出しました。

諸先輩たちが築き上げ
た五十年の歴史を次の世
にしっかりと受け継いで
いく為に、今私たちので
きる事・成すべき事は、
現在置かれている混沌と
した宗教批判やコロナ禍
にあつても、誰に臆する
事なく、今こそすばらし
い教祖『明主様』の信仰
を前面に押し出して、ま
ずは家族そして友人、知
人に正しく伝えていく事
ではないでしょうか。

世界を形成している
「個々の繋がり」を大切に
し、教祖の教えを家庭か
ら社会へひろげる。教団
方針に賜りましたように、
皆さんと共に手を取りあ
つて浄霊の輪・仲間の輪
をひろげ、愛と活気ある
教団を築き上げてまいり
ましょう。

大光明、明主様、今後
の活動に御守護賜ります
ようお祈り申し上げます。
光守様、これからも一
層の暖かいお見守りをお
願ひいたします。

新年のご挨拶





伊那教会長 小林 隆男

あけましておめでとうござ
います。令和五年 癸卯の年
誠におめでとうございます。
昨年私たちは、創立五十年と
いう大きな節をおつかえさ
せていただきました。



浜松教会長 山田 友子

謹んで新春のお祝いを申し
上げます。



長野教会長 山崎 明憲

あけましておめでとうござ
います。



滋賀教会信徒代表 辻井 健蔵

明けましておめでとうござ
います。

宗教界にとりましても、教団
にとりましても厳しい状況の中
で「参拝・浄霊・奉仕」に努め
させて頂く新年を迎えました。

この様な時こそ、
「みつめなおそう 明主様の
こころ」・「貫きとおそう明主
様の心」の教団創立の原点を
しっかりと心に刻み、「光」

を求めて、新年を無事に迎え
られた喜びと感謝の気持ちを
大切にして、明主様のお喜び
頂ける、佳き年となるように
信徒の皆様方と共に、精進を

重ねてまいりたいと思いま
す。宜しくお願い致します。



自然農法担当 戸塚 大介

光守様、教師・専従者の皆様、
信徒の皆様、あけましておめで
とうございます。

昨年も多くの皆様から伊那農
場活動への協力を頂き更には光
守様もお出ましになりました。
お陰様で水田でお米が增收しま
した事、誠に感謝申し上げます。

さて、私が伊那農場での御用
お許しを頂いてから今年で十四
年目となります。多くの御守護
を頂きながら大切な自然農法の
教えを実践して参りましたが、

今までは食の安全等、私達の健
康に関わる問題を考えながら取
り組んできました。しかし、昨
年からの世界情勢の変動に伴う
食料品価格の高騰など、食の問
題がより深刻になってきました。

その様な中で、農業も肥料も必
要ないこの無施肥無農薬農法は
健康問題を越えた大きな可能
性があるのではないかと思うよ
うになりました。

本年は皆様もより一層食の問
題に関心を持ってもらい、出来
る範囲から良いので、農業やそ
れに関係した事に挑戦して頂き
たいと思います。

本年もよろしくお願い申し上
げます。

教祖・明主様

光守の思い

『ことばの世界』
(藤井聡太のことば)

藤井聡太さんが注目され
たのは、平成二十八年に史上
最年少の十四歳二ヵ月でプ
ロデビューしてから十九勝
という勝ちつぶりではなく、連
勝中に発せられた中学生に
似合わない言葉、語らいの豊か
さによってでありましょう。

デビュー初戦「望外の結
果が素直にうれしい」と答え
ています。あどけなさが残る
中学生の口から自然に出た
ことに、世間は感嘆したよう
です。

二十連勝のときは「実力
からすると僥倖(思いがけ
ない幸せ)としかいいようが
ない」と語っています。

「望外」「僥倖」。どちらも
藤井さんが自身の快進撃を
どう見ていたのかを考えま
すと、これ以外にないことば
だったのでしょ。

藤井さんの言葉の豊かさ
に感嘆したのは昨今の言葉
の世界がいささか窮屈なこ
との裏返しでしょうか。では

藤井さんのように奥深い、豊
穡な言葉をどうしたら得ら
れるのでしょうか。将棋をや
る子供は、幼い頃から道場で
大人に混ざって指すので、大
人の言い回しをまねすると
いいです。将棋でおいちゃ
んから子供まで、いろんな人
と話すので、知識が増えてい
くそうです。

藤井さんは、毎日、新聞を
読み、読書量もととても多い
ということとで知識が増え言
葉も増したのでしょうか。

また、知識と経験を蓄積
し、間違っていないから自分の
中から出た言葉を発するよ
うにしているようです。

言葉が人をつくり、人が
言葉をつくるのでしょ。い
ろいろと勉強させてもらい
ました。



藤井さんの言葉の豊かさ
に感嘆したのは昨今の言葉
の世界がいささか窮屈なこ
との裏返しでしょうか。では



教団園場で収穫された「御初穂」を最上段に献上し感謝と祈りをささげます。



会場のあちこちでミニ浄霊会



再会に笑顔がこぼれる



献饌物を収穫する戸塚担当、小林委員長



大盛況の売店



会場を大いに沸かせた小林委員長の報告全文は神成2月号に掲載します。



併せて190歳 光守様と福沢元松川教会長。久々の御面会に緊張を隠せません。

令和四年火水土の恵み感謝祭執行 三年振り神成郷・光元宮・光明殿において

倒伏した一般水田の稲があたかもあたかも
「明主様恐れ入りました」ばかりにひれ伏しているのではないか…。

健康を考える会 小林隆男委員長 熱弁

令和四年十二月十三日水
午前十一時より須玉神
成郷光明殿において「火
水土の恵み感謝祭」が三
年ぶりに執り行われま
した。
久しぶりに再会という
こともあり、信徒の皆さ
んは自然と湧き上がる笑
顔・笑顔で大興奮状態。
早速会場のあちこち
らでミニ浄霊会。
式典では小林委員長の
熱が入った伊那水田収穫
報告に皆さん聞き入り愛
と笑いあふれる感謝祭で
した。

教団創立
五十周年に
寄せて
第三回

偶感・創立五十周年

山形教会長 浅水屋治

昭和・平成・令和。

世の中を振り返ると、

あの事象この事件がこん

な流れで起きていたのか

と、改めて懐かしかった

り驚いたりしている。

私個人で謂えば、まさ

に昭和の終わりに専従の

お許しを賜り、平成の終

わりに定年を迎えたこと

が、何やら感慨深い。

その間各地域を廻り、

その文化？の違いを体感

しつつ、現在は古巣山形

に定着している。

今、我々は原点回帰し、

治療師であってはならな

い、しかし治療師でなく

ては奇蹟は起きない。こ

の矛盾とも言える課題に

いかに対処してゆくかが

問われていると、五十一

年目の始動に際し自らに

言い聞かせている。

謹賀新年

本年もよろしくお願ひ申し上げます。

救いの光教団

令和五（二〇二三）年

癸卯

みずのとう

多くの方に「御浄霊って知ってますか？」と声を掛けよう。私達には「浄霊」があり明主様の教えがあり教会がある。初心に返り1からスタート。

宗教法人
救いの光教団 東京教会
TEL.03-3413-5021
tokyo@sukui.jp

ご浄霊。

カラコ
ラコ
タコ
を

下北沢で

無料 体験会受付中

勧誘行為は一切ありません

所要時間約15分 受付は当ビル1Fまで



教団創立50周年祭に合わせて披露された光守様作の光組の歌詞